

## 1 この科目の構成について

教 科	国語科	科 目	現代文	単 位	3単位
対象コース	情報ビジネスコース	対象クラス	3年7組		
使用教科書	改訂版 高等学校 現代文（第一学習社）				
使用副教材	なし				

## 2 この科目の目標・学習内容・学習方法について

学 習 目 標	—この科目を学習して何を身に付けてほしいのか—
	(1)近代以降の文章について、読解・鑑賞・読書の方法を修得し、ものの見方・考え方を深め、表現力を高めます。 (2)客観的な読解を通して、筆者の表現・意図に忠実な論考をします。その上で、自己の意見との比較を行い、独自の考察をできるようにします。
学 習 内 容	—この科目で学習する大まかな内容—
	(1)言語の学習を意識し、表現や理解の基礎となる語句・語彙・文法・漢字の読み書きの継続的な活動を行います。 (2)一般常識レベルの読解力と解答時間のスピードアップを図るための、解法の技術を高めます。
学 習 方 法	—この科目を学校と家庭でどのように学習すればいいのか—
	以下の2点を家庭学習（自主学習）と授業・演習を通して継続的に行います。  (1)素読から精読へと質を向上させるために、文脈を中心にした読解を段階的、かつ継続的に実践します。 (2)解答後の見直しを丁寧に行い、設問の条件・意図・形式を十分理解した解答を作成します。

## 3 この科目の評価方法について

評 価 方 法	—何をを使って評価するのか—
	(1)定期考査→年4回、定期考査を実施します。授業での学習内容から出題します。 (2)確認演習プリント→授業の単元ごとに実施します。 (3)長期休暇中の課題→現代文の演習問題を宿題として課します。 (4)学期中の課題→授業理解の確認のための宿題を課します。
評価における定期考査の割合	
	70 %

## 4 この科目の評価の観点について

評 価 の 観 点	—この科目の学習内容はどのような基準で評価されるのか—
	(1) 関心・意欲・態度 問題を解決しようとする意欲、つまり考えようとする態度を重視します。
	(2) 思考・判断 合理的であるか否かが評価の軸となります。恣意的な思考は評価しません。
	(3) 技能・表現 口頭・文章ともに、受け手に配慮した簡明な表現であることを重視します。
	(4) 知識・理解 定着度だけでなく、知識を得ようとする日常の取り組みを評価します。

年間学習計画		—この科目でいつ・何を・どのように学ぶのか—		重視する評価の観点			
期	月	学 習 の 項 目	学 習 の 内 容	関	思	技	知
1	4	小説（一） 「タオル」 重松 清	さまざまな性格の作品に触れることで、読解力を深め、小説に対する関心を高めます。文体・描写・構成に着目し、言語表現の豊かさ、面白さを味わい、多様な解釈を試みることで各自の読書行為へと反映、発展させます。 <b>道徳教育を実施</b>	●	●	●	●
	5	評論（一） 「未来世代への責任」 岩井 克人	論理的な文章を読む基礎的な技術の習熟を目指します。文章の論理展開を把握し、一般的な常識とは異なる筆者の主張を理解します。またそれについて自分なりの意見を持ち、今後の考え方に反映させます。 <b>道徳教育を実施</b>	●	●		●
	6	小説（一） 「おおるり」 三浦 哲郎	さまざまな性格の作品に触れることで、読解力を深め、小説に対する関心を高めます。文体・描写・構成に着目し、言語表現の豊かさ、面白さを味わい、多様な解釈を試みることで各自の読書行為へと反映、発展させます。	●	●	●	●
2	7	評論（二） 「身体の個別性」 浜田 寿美男	論理的な文章を読む基礎的な技術の習熟を目指します。文章の論理展開を把握し、一般的な常識とは異なる筆者の主張を理解します。またそれについて自分なりの意見を持ち、今後の考え方に反映させます。	●	●	●	●
	8						
	9	評論（三） 「目に見える制度と見えない制度」 中村 雄二郎	論理的な文章を読み解くための基礎的な技術を身につけます。文章の論理展開の型を把握しながら筆者の主張を的確に読み取り、それをふまえながら自分なりの見解を持てるようにします。また、自明だと思われる事柄に対して、その自明性を問い直す高度な抽象的思考力を身につけます。 <b>道徳教育を実施</b>	●	●		●
3	10	小説（二） 「舞姫」 森 鷗外	古典的な名作を読み、登場人物の心情の揺れに密着して小説を読む方法を学びます。語句の意味を正確にとらえ、明治文語文ならではの美しい描写や表現に触れることによって言語感覚をみがきます。 <b>道徳教育を実施</b>	●	●	●	●
	11						
	12	評論（四） 「句を切る」 長谷川 権	論理的な文章の構成、論の展開を正確に把握して、要旨を的確に捉える。短歌や俳句の主要な特徴についての関心と理解を深める	●	●	●	●
3	1	詩 「足と心」 中桐 雅夫 「冬の日」 以倉 紘平 「自然の背後に隠れて居る」 萩原 朔太郎	近代詩、現代詩の鑑賞のしかたを確認し、より深めていく。近代詩や現代詩の中に織り込まれた、様々な世界認識の方法や枠組みについて学ぶ。				